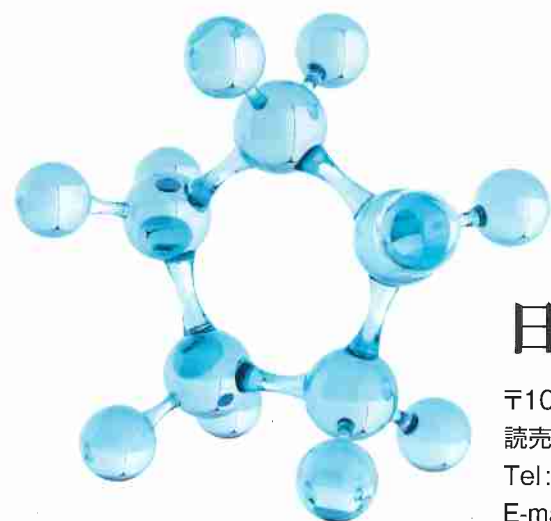




日本学生科学賞事務局

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
読売新聞東京本社 社会貢献事業室
Tel: 03-3216-8598 (平日10時~17時)
E-mail: jssa@yomiuri.com



公式ホームページ

<https://event.yomiuri.co.jp/jssa/>

地方審査の詳細は、ホームページの「問い合わせ」でご確認ください。

未来を創るのは君の発見！

JAPAN STUDENTS
SCIENCE AWARDS

第68回

日本学生 科学賞

応募要項

総合型選抜
の大学受験資格

内閣総理大臣賞
賞金50万円
賞金総額 約600万円

入賞
特典

国際大会
ISEFへの
代表出場
応募作品から選抜

応用数学分野 募集中！

募集分野 物理、化学、生物、地学、広領域
情報・技術、応用数学

募集期間 ホームページの問い合わせ窓口からご確認ください。

日本学生科学賞は、中学生・高校生を対象にした
歴史と伝統のある日本一の科学コンクールです。
未来につながる科学から、身近にある疑問を解く研究まで大歓迎。
高校生には、ISEF (国際学生科学技術フェア) への
日本代表として出場するチャンスもあります。

地方審査
2024年
9月~10月

▲QRコードから
アクセスしてください▲

主催 読売新聞社 協賛 AsahiKASEI
共催: 全日本科学教育振興委員会、科学技術振興機構

概要

第68回 日本学生科学賞

1957年に始まった日本学生科学賞は、中学生、高校生を対象にした歴史と伝統のある日本最高峰の科学コンクールです。昨年の第67回大会では、全国の中学・高校から約8万点の研究作品の応募がありました。

今大会でも、身の回りの小さな疑問や不思議の解明、教科書に書かれている学説に対する疑問の解決などについて、個人、もしくは生徒が共同で行った作品を募集します。学校の課題研究の発表も歓迎。「科学する心」が伝わる研究作品を強く期待します。

応募資格

中学・高校の生徒。国・公・私立は不問。
高等専門学校、定時制高校の生徒は3年生まで。

賞

楯と副賞（研究奨励金）が贈られます。

内閣総理大臣賞

2点 ……中学・高校から各1点
副賞 50万円

文部科学大臣賞

4点 ……中学の個人・共同研究から各1点
高校の個人・共同研究から各1点
副賞 30万円

環境大臣賞

科学技術政策担当大臣賞

いずれも2点 ……中学・高校から各1点
副賞 30万円

全日本科学教育振興委員会賞

読売新聞社賞

科学技術振興機構賞

日本科学未来館賞

旭化成賞

いずれも2点 ……中学・高校から各1点
副賞 20万円

※上記の賞は「該当研究無し」という場合もあります。
※文部科学大臣賞以外の各賞は個人・共同研究の区別はありません。
※研究奨励金は受賞者または在籍校に贈られます。

募集分野

物理、化学、生物、地学、広領域、
情報・技術、応用数学

※広領域は複数の分野にわたる研究など。
※情報・技術、応用数学は中央審査のみ。

入選

楯が贈られます。

1等 20点…中学・高校から各10点
2等 20点…中学・高校から各10点
3等 22点…中学・高校から各11点

※入選点数は若干の増減があります。

特別賞

楯と副賞（研究奨励金）が贈られます。

学校賞

これまで、本賞で優秀な成績を残している学校や、科学教育に熱心に取り組み、成果を上げている学校などに授与されます。

2校…中学・高校各1校
副賞 20万円

指導教諭賞

これまで、本賞を通じて長年にわたり科学教育に貢献してきた教諭の中から、顕著な功績をおさめられた方に授与されます。

若干名
副賞 20万円

※「該当校、教諭無し」という場合もあります。
※学校賞の研究奨励金は受賞校に、指導教諭賞の研究奨励金は受賞者に送られます。

中央審査委員（総合委員）

※このほか、中学、高校教諭をはじめとした審査委員（専門委員）約40人が審査を行います。 ※2024年4月1日現在

【審査委員長】 長濱嘉孝 自然科学研究機構 基礎生物学研究所 名誉教授（分子生物学）

【審査副委員長】 大路樹生 名古屋大学 名誉教授（古生物学・海洋動物学）

【審査委員】 佐野雅己 東京大学 名誉教授（物理学）
松川 宏 青山学院大学 理工学部 教授（物理学）

村田 滋 東京大学 名誉教授（化学）

西原 寛 東京理科大学 特任副学長（化学）

藤井正明 中央大学 研究開発機構 機構教授（化学）

高橋正征 日本科学協会 会長（生態学）

和田正三 東京都立大学 名誉教授（生物学）

堀 良通 茨城大学 名誉教授（植物学）

町田武生 埼玉大学 名誉教授（動物学）

木村昌由美 東京大学 ニューロインテリジェンス国際研究機構 特任教授（神経科学）

小林 悟 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 教授（発生生物学）

酒井 敏 静岡県立大学 副学長（地学）

Simon Wallis 東京大学大学院 理学系研究科 教授（地学）

西原明法 東京工業大学 超スマート社会卓越教育院 特任教授（電子工学）

浅田 稔 大阪国際工科専門職大学 副学長（ロボット学）

西成活裕 東京大学大学院 工学系研究科 教授（数理物理学・工学）

合原一幸 東京大学特別教授室 特別教授（数理工学）

西浦廉政 北海道大学 名誉教授（応用数学）

高校生が中央最終審査で
上位入賞すると、
学校推薦型選抜や
総合型選抜の受験資格が
得られるほか、
ISEF2025へ出場できる
チャンスがあります。

第67回大会中央表彰式の様子



大学の入試で合格者続々！！

2024年の入試では、東京大学（理学部）、慶應義塾大学（理工学部など）、早稲田大学（先進理工学部）、大阪大学（理学部など）、神戸大学（工学部）、筑波大学（医学群医学類）などで、入賞者に学校推薦型選抜や総合型選抜の受験資格が得られました。

近年、日本学生科学賞の受賞者が東京大学や大阪大学に合格するなど、多くの入賞・入選者が、国公立・私立大学に挑戦しています。詳しくは各大学にお問い合わせください。

日本代表として世界に挑戦

世界最大の学生科学コンテストISEF（国際学生科学技術フェア）へ日本代表として出場するチャンスがあります。詳しくは7ページをご覧ください。

ISEF2023の記事はこちらから

<https://event.yomiuri.co.jp/jssa/abroad>



応用数学分野 募集中！

日本学生科学賞は、「応用数学」分野の研究作品を募集しています。

自然や人、そして社会の様々な現象について、数学を活用してその仕組みや関係性を明らかにする研究をお寄せください。

これまでの「情報・技術」分野と同様、審査は中央で一括して行います。

募集するのは、例えば右のような研究作品です。もちろんこれらの例にとらわれず、中高生の皆さんの自由な発想で積極的な応募をお待ちしています。

※アンケート等を含む、人を対象とした研究を行う場合は、5ページの「研究を始める前に」もご覧ください。

「応用数学」の研究例

- キリンの網の目に規則性はあるのか？
- 宅配便で荷物を効率よく届けて回するにはどういうルートがよいのか？
- 感染症は今後どう終息していくのか？
- 体育館に全校生徒が集合する場合、各クラスがどう移動すれば一番早く集まれるか？
- ヒット曲に共通するリズムの特徴はあるのか？
- 日本語の文章が最も打ちやすいキーボードの配列は？
- 街のどこにコンビニを出店すれば一番儲かるか？
- 交差点での交通量を最大にするための信号制御の方法は？
- 会議での結論は、実際に会議をしなくても参加者の性格などから予測できるか？
- テーマパークの料金を値上げすると、どれくらい客は減るのか？
- 家の引っ越し荷物を1台のトラックに全て詰められるか？

地方審査

期間 **9月～10月**

募集分野 **物理・化学・生物・地学・広領域**

9月から10月にかけて、中央予備審査に進む作品が選定される地方審査(都道府県大会)が行われます。「物理・化学・生物・地学・広領域」分野の研究作品は、地方審査に応募してください。

各地方審査によって、募集要項が異なります。公式ホームページの「地方審査問い合わせ先」でご確認ください。

応募方法 公式ホームページ上の出品票または、この「応募要項」10ページの出品票に必要事項を記入し、作品に添付してご応募ください。

送付先など 作品の送り先は9ページの「各都道府県 地方審査 問い合わせ」や、読売新聞の各地域版、公式ホームページの地方審査問い合わせ先をご確認ください。

※応募先は、学校が所在する都道府県となります。
※東京都審査は、web登録が必要となります。詳しくは10ページ下部をご覧ください。
※ISEF出場を目指す研究作品は、7ページもご覧ください。

都道府県ごとに中央予備審査に進む代表作品を、原則として中学の部、高校の部で各3点決めます。

ただし北海道、千葉、埼玉、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡は各6点です。

審査結果は読売新聞の各地域版で発表します。

事前審査

募集分野 **情報・技術、応用数学**

「情報・技術、応用数学」の作品は、地方審査(都道府県大会)を行わず、中央予備審査に進む作品を選定する事前審査を行います。

応募方法

- ①公式ホームページ内の「情報・技術、応用数学用応募フォーム」に必要事項を入力し、登録を行ってください。
- ②入力後、応募フォームに記入したE-mailアドレスに登録完了メールが送られてきます。登録完了メールに記載されているID、PASSを用いて、マイページへログインしてください。
- ③ログイン後に、マイページから研究レポートをアップロードしてください。
- ④研究レポートは、「研究レポート規定」に従い作成してください。

※ID、PASSはなくさないよう保管してください。

※研究レポートは、「研究レポート規定」に従い作成してください。

※研究レポートをプリントアウトし、出品票と共に下記事務局まで郵送してください。

送付先 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
読売新聞東京本社社会貢献事業室 日本学生科学賞事務局
TEL 03-3216-8598

受付期間 2024年9月2日(月)～10月28日(月)
※審査結果は応募フォームに入力したE-mailアドレスにお知らせします。

注意

- 研究の際、表計算ソフトを使用したというだけでは、この分野の対象にはなりません。
- 明らかに他分野(物理・化学・生物・地学)の作品は審査できかねます。地方審査にご応募下さい。

中央予備審査に向けた登録

地方審査を通過し、都道府県代表に選ばれた作品は、中央予備審査前に下記の登録作業・研究レポートの提出を行って下さい。

- ①「研究レポート規定」に従った研究レポートを用意してください(地方審査の形式と異なる場合があります)。
 - ②公式ホームページから「中央予備審査登録フォーム」に必要事項を入力の上、研究レポートを郵送してください。
- ※詳細は、地方審査終了後、対象者に直接通知します。

中央予備審査

期間 **11月16日(土)・17日(日)**

審査委員が分野ごとに審査を行い、中央最終審査に進む中学・高校各20点と、入選2等、3等の作品を決定します。



第67回大会
中央予備審査会の様子

中央最終審査

オンライン審査 **12月 14日(土)・15日(日)**

表彰式 **12月20日(金)**



第67回大会中央最終審査会(オンライン)の様子
※一部画像を加工しています

中央予備審査を通過した研究作品40点について、審査委員が直接研究者に質問するオンライン審査を行います。

研究生徒はオンライン上で、動画によるプレゼンテーション(事前撮影)や質疑応答を行います。その際、指導教諭は審査委員の質問に答えたり、研究者に助言を与えたりすることはできません。

審査結果は12月20日の表彰式で発表し、翌日の読売新聞全国版に掲載する予定です。

※オンライン審査の詳細は、対象者にお知らせします。

国際大会(ISEF)への代表出場

2025年5月に開催される
ISEF2025へ日本代表として
出場します。

※詳細は7ページ

応募時の注意事項

- 障がいなどが理由で、応募登録や審査に不安がある人は事務局にご相談ください。
- 「高校生・高専生科学技術チャレンジ」(JSEC)は、日本学生科学賞とともに国際学生科学技術フェア(ISEF)と提携しているため、同じ研究作品を重複して応募することはできません。また、同じ学校から異なる作品を日本学生科学賞とJSECに応募した場合、同じ研究者が含まれている場合は、二重応募とみなします。
- 中学の部では「自然科学観察コンクール」に同じ研究作品を重複して応募することはできません。
- ISEF派遣対象は、高校の部と中学3年生の個人研究または2～3人の共同研究になります。4人以上で進めた研究は対象外になりますのでご注意ください。
- 2024年1月以降のデータを含む作品に限りです。継続研究の場合、前年までの研究と、新しく研究した部分を分けた上で、研究期間が明確に分かるようにご記入ください。
- 出品にあたって、文献、論文、新聞・雑誌の記事、テレビなどの映像番組、インターネット、講演会、インタビューなど第三者の研究・著作物を参考にしている場合は、参考資料として必ず明記してください。研究に虚偽がある場合、また第三者の著作権やその他の権利を侵害するものであることが確認された場合、主催者協議の上、審査対象外としたり、審査終了後でも賞を取り消したりすることがあります。
- 「チャットGPT」などの生成AI(人工知能)を使用した場合には、使用した箇所や方法、プロンプト(指示文)を明記してください。審査の過程でその箇所や方法について審査員や事務局が質問する場合があります。
- 特許等の取得を検討している場合、申請は研究内容の発表前に行ってください。
- 中央予備審査を通過した研究作品ならびに中央最終審査や表彰式の様子を撮影した画像や動画、受賞後に読売新聞社が取材した画像を含む紙面等は、主催者が本賞のPRをはじめとする各種媒体に自由に使用できるものとします。
- ご応募いただいた個人情報は受賞者への連絡、研究作品に関する問い合わせ、取材、受賞者発表および賞状などの送付、また読売新聞社主催の関連イベントの案内などで使用します。

5ページの「研究をはじめの前に」も合わせてご確認ください。

研究レポート規定(抜粋)

- 右記の指定項目に沿って、原則5000～8000字程度(指定項目⑦、⑧を除く)にまとめてください。用紙サイズA4、横書きとします。
- 右記の指定項目の③研究方法、④結果、⑤考察は実験ごとにまとめても構いません。図表には対応番号をふり、文中の適切な位置に挿入してください。データ量が多い場合には、巻末に回しても構いません。
- 研究レポートをPDFで保存し、公式ホームページ上のフォームから登録してください。登録後、レポートをプリントアウトし、出品票と共に事務局まで郵送してください。プリントアウトの際は両面印刷とし、クリップで留めてください。
- レポート以外の参考資料(研究論文、実験ノートなど)や動画などはCD-R、USBなどの記録メディアにコピーして事務局までお送りください。
- レポートや記録メディアの返却はいたしません。
- 標本(液浸標本等含む)、装置、模型などの実物提出は受け付けません。
- 公式ホームページ上の登録フォームでアップロード可能なレポート(PDF)の容量は30MBまでです。
- マクロは使用不可です。
- ※詳細は、公式ホームページをご確認ください。
- ※手書きの研究作品でも応募は可能です。地方審査をポスター発表で通過した場合には、A4サイズでPDFなどの読みやすい形に加工してご応募ください。

指定項目

- ① 要旨、概要
- ② 問題提起、研究目的
- ③ 研究方法
- ④ 結果
- ⑤ 考察
- ⑥ 結論(課題)
- ⑦ 参考文献
- ⑧ 謝辞

実験ごとに
③、④、⑤を
まとめても可